
第 26 回地域福祉実践研究セミナーin 岩手・はなまき
開催要綱

第 26 回地域福祉実践研究セミナーin 岩手・はなまき実行委員会

第26回地域福祉実践研究セミナーin 岩手・はなまき開催要綱

【テーマ】世界がぜんたい幸福になる地域づくりをめざして

～人口減少にも負けず、災害にも負けない、そういう地域をわたしたちはつくりたい～

1 開催趣旨

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法が改正されるなど地域福祉をめぐって大きな転機を迎えており、今日の地域福祉を推進するうねりの一端は、この「地域福祉実践研究セミナー」が創りだしてきた成果でもある。

今回のセミナーの主な舞台となる、岩手県花巻市は、詩人・童話作家である宮沢賢治が、岩手県をモチーフとして名付けた「イーハトーブ」の地であるとともに、戦後の混乱・困窮期から、困窮者の救済事業「よるひる銀行」に社会福祉関係者が取り組み、全国に世帯更生運動が広まるなど、「世界がぜんたい幸福」を願う支えあい活動が、受け継がれている。

本セミナーは、岩手県、岩手県社会福祉協議会をはじめ、花巻市、花巻市社会福祉協議会、花巻市内および近隣市町村の関係機関・団体などが、協働して実行委員会を組織し、日本地域福祉研究所とともに諸準備に取り組んできた。

また、東日本大震災から10年の節目となる、この岩手県の復興から成長のあゆみ、そして、後世に伝えるべき災害への備えについて、関係者が共有する必要がある。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況で、本セミナーの開催が一年延期を余儀なくされた中で、地域福祉の状況が大きく変容しており、開催方法を会場参加とあわせて、オンライン参加を新たに取り入れ、全国から多くの参加が得られる新たな取組を導入した。

本セミナーでは、国が「全世代・全対象型地域包括支援体制」の新たな福祉ビジョンとして、打ち出した、地域共生社会と包括的支援体制の実現をめざし、今日的な政策と花巻市や県内市町村の先駆的な実践活動、そして裏付けになる研究を重ねて、参加者一人ひとりがともに学び合うセミナーとしたい。

2 開催期日 令和3年 8月 19日(木)～ 21日(土)

1日目 全体会 (動画配信サービスでのライブ配信を併用)

2日目 ワークショップ7会場

(ビデオ会議システムによるオンラインセミナーを併用)

3日目 全体会 (動画配信サービスでのライブ配信を併用)

※2日目のワークショップにオンライン参加の場合、カメラ付きパソコンが必要です

3 会場 総合営農指導拠点センター、花巻市文化会館、花巻市総合福祉センター 他

4 主催 第26回地域福祉実践研究セミナー実行委員会(事務局:花巻市社会福祉協議会)
特定非営利活動法人日本地域福祉研究所

5 共催 岩手県/花巻市/岩手県社会福祉協議会/花巻市社会福祉協議会 順不同

6 後援 岩手県民生委員児童委員協議会/花巻市民生委員児童委員協議会/花巻ボランティア連絡協議会/岩手県立大学/東北福祉大学/東北文化学園大学

順不同

7 参加費 【会場参加】

一般6,000円、学生2,000円(資料代、2日目分科会参加費)

【オンライン参加】

一般4,000円、学生1,000円(2日目分科会参加費)※資料は各自でダウンロード
※印刷資料希望の場合、別途、一般2,000円、学生1,000円(郵送配布)

【岩手県内参加者※会場参加・オンライン参加いずれも】

一般2,000円、学生1,000円(資料代、2日目分科会参加費)

【1日目 鼎談、シンポジウム】(会場参加・オンライン参加)

一般・学生ともに1日目のみの参加 無料

- 8 参加対象 行政職員、社会福祉協議会役職員、社会福祉法人・NPO法人役職員、コミュニティソーシャルワーカー、地域福祉活動実践者、民生委員・児童委員、学校関係者、地域福祉に関心のある方

9 プログラム

【1日目 8月19日(木) 13:00~17:30】 全体会 会場 総合営農指導拠点センター

◆動画配信サービスでのライブ配信によるオンラインセミナー

【定員 会場参加 150名】

○受付 12:00~12:50

○開会式 13:00~13:15

・挨拶

主催者挨拶	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所	理事長	大橋 謙策
県社協会長挨拶	社会福祉法人岩手県社会福祉協議会	会長	長山 洋
市長挨拶	花巻市(開催地)	市長	上田 東一

○基調説明13:15~13:35

「花巻市の地域福祉の源流」

～イーハトーブの実現に向けた花巻の地域福祉の取り組み～

花巻市社会福祉協議会 高橋 照幸 会長(実行委員会委員長)

【基調説明】

実行委員長・開催地社協会長あいさつを兼ねて、花巻と地域福祉の活動を紹介

- ・話題① 花巻市の概要とPR、地域福祉の取り組み
- ・話題② 宮澤賢治のイーハトーブの世界、小川金英住職の「よるひる銀行」
- ・話題③ 本セミナーのねらい

○鼎談 13:35~15:05 (花巻市の地域福祉の先駆性、特徴紹介を目的に開催)

「互いに認め合い、支え合い、幸福を実感できる地域社会の実現」

～イーハトーブ岩手・はなまきから、人口減少に向き合う地域福祉のひとづくり、まちづくり～

岩手県	千葉 茂樹	学術文化特別参与(前副知事)・岩手県立大学理事長
花巻市	上田 東一	市長
日本地域福祉研究所	大橋 謙策	理事長

【鼎談の流れ】

登壇の鼎談者3名の紹介・・・・・・・・

この鼎談の主旨について、説明・・・・・・・・

大橋理事長の話題提供による、テーマにかかる具体的な話題について、各鼎談者からのコメント※感じていること（素晴らしい点、課題や問題点）

国内外などの大きな視点（大橋理事長）、岩手県の視点（千葉前副知事）、花巻市の視点（上田市長）

- ・話題① 現在の福祉をとりまく環境について
- ・話題② 少子高齢化、人口減少社会、人生100年時代に向かって
- ・話題③ 地域づくり、人づくりについて
- ・話題④ 課題・問題解決の具体策について
- ・話題⑤ 地域共生社会の実現に向けた関係者への期待・要望について
- ・話題⑥ 国・岩手県・花巻市の今後、果たすべき役割について

○シンポジウム 15:20～17:20

「東日本大震災後10年からの提言」

～災害に備える・災害に負けない地域福祉のまちづくり～

シンポジスト

岩手県社会福祉協議会

右京 昌久 元事務局長

宮古市社会福祉協議会

有原 領一 総務課長

釜石市役所

村上 徳子 地域福祉課長

陸前高田市民生委員児童委員協議会 及川 昇 会長

コーディネーター

宮城 孝氏(法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授)

【シンポジウム概要】

被災後の個別支援から地域支援へのひろがり、沿岸部の直接支援と内陸部の後方支援活動等に焦点を当て、岩手県内10年の災害支援と現在も継続する生活課題、生活環境変化による新たな課題にも触れながら、それらを踏まえたこれからの災害への備えと災害に負けない地域福祉のまちづくりについてを提言する。

【シンポジウムの流れ】

このシンポジウムの主旨について、説明・・・・・・・・※研究所先生から

テーマにかかる具体的な話題について、各シンポジストからのコメント

- ・災害初動活動とコミュニティソーシャルワーク
- ・地域のつながりで、孤立死を防ぐ
～仮設住宅から災害公営住宅への新たなコミュニティづくり～
- ・復興への新たな挑戦 福祉と〇〇の新たな連携（ボランティアネットワーク）
- ・被災から10年後、現在の人と地域の生活課題、
(例：高い堤防と水はけの悪さ、商店の衰退、被災者住宅の家賃、景観の阻害、等)
- ・台風、豪雨等、新たな災害への備え

【2日目 8月20日(金) 10:00～16:30】 分科会 ※会場 花巻文化会館ほか

○受付 9:00

◆ビデオ会議システムによるオンラインセミナー

【定員 各分科会・会場参加 20名、オンライン参加 30名】

①地域共生社会の実現に向けた農福連携の新たなチャレンジ

「農業と福祉をつなぐ将来へのチャレンジ」～農福・障農連携で地域づくり～
アドバイザー

宮城 孝氏(法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授)

宮城 好郎氏(岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科教授)

三浦 剛氏(東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科教授)

実践報告者

① 高松第三行政区ふるさと地域協議会 事務局長 熊谷 哲周氏

② 社会福祉法人悠和会「アールペイザンワイナリー」

栽培・醸造責任者 高橋 和也氏

③ いわて水産持続化共同企業体

事務局 四ツ目商事株式会社 取締役専務 佐々木 和也氏

社会福祉法人大洋会 障がい者施設 担当者(予定)

【目的・ねらい】

花巻市の人口は、昭和50年以降、少子高齢化が進み、人口は平成12年をピークに減少に転じている。

少子化の影響や過疎化の進行により担い手が減少する課題に、解決するためのひとつの方法として、地域、農林水産業、福祉をキーワードに、新たな取り組みにチャレンジしている実践事例から、手法を学ぶ。

・実践事例の1事例

(案)「ワークステージ銀河の里」(花巻)～農業を基盤とした福祉からのチャレンジ～
アールペイザンワイナリーの開所、シードル・ワインの製造

米、りんご、ぶどうの生産と福祉をつなぐ(高齢者と障がい者とともに) など

運営協力 花巻市健康福祉部障がい福祉課

花巻市地域自立支援協議会

情報部会(福祉情報、居住情報 各WG)、相談支援部会、こども支援部会

就労部会(企業開拓、スキルアップ、地域連携 各WG)、本人活動部会

②東日本大震災から10年後、現在の人と地域の生活課題

「東日本大震災から10年の地域復興のあゆみ」

アドバイザー

菱沼 幹男氏(日本社会事業大学福祉計画学科准教授)

船戸 義和氏(岩手大学 復興・地域創生ユニット特任助教)

実践報告

- ① 釜石市社会福祉協議会地域福祉課 菊池 亮 課長
- ② もっちいと森の仲間たち 代表 望月 達也氏
交流のある災害公営住宅の地域代表者(交渉中)
- ③ 岩手県社会福祉協議会地域福祉企画部 斉藤 穰 部長

【目的・ねらい】

あの未曾有の大災害「東日本大震災」から、節目となる10年が経過し、まちやひとが、どのように移り変わってきているのかを共有する。

災害よって、家を失った人たちのための災害公営住宅は、ほぼすべてが完成となっており、新たな「終の住みか」が整備される一方で、高齢化する被災者が周囲と交流しない「社会的孤立」などの地域課題も見えてきている。

震災を振り返り、経験と教訓を忘れることなく、地域や世代を超えて伝え続け、あらためて災害の備えについて見つめ直すとともに、新たな地域とのつながりやチャレンジに取り組む実践事例から、手法を学ぶ。

(例：高い堤防と水はけの悪さ、商店の衰退、被災者住宅の家賃、景観の阻害、等)
・台風、豪雨等、新たな災害への備え

また、実践発表者の花巻と釜石から、草の根レベルの災害支援と現在の生活課題を紹介する内容とする。

●実践事例の1事例

(案)仮設住宅や災害公営住宅などのコミュニティづくりを通じた、様々な交流活動による、新たなコミュニティでの震災復興の取り組み等

運営協力 岩手県社会福祉協議会地域福祉企画部

花巻ボランティア連絡協議会

県内市町村社協 生活支援相談員

③みんなが集い、ふれあう居場所づくりを通じた地域づくり

「地域の居場所を通じた、つながりづくり」

アドバイザー

秋山由美子氏(日本地域福祉研究所理事)

佐藤 哲郎氏(岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科准教授)

実践報告

- ① ぬくまる食堂実行委員会 事務局長 鹿討 康弘氏
- ② 一般社団法人ココ・アルバ 代表 高橋 早苗氏
- ③ cochaco(コッチャコ) 代表 多田 真弓氏

【目的・ねらい】

近年、地域の高齢者のみならず、子どもや若者が、安心してすごせる居場所づくりの取組みが広がっている。

ふれあいいきいきサロンやこども食堂など、様々な居場所づくりは、住民同士の支えあいのひとつとして、地域の豊かさにつながっている。

地域共生社会の実現に向けて、大きな役割を果たす、居場所づくりを通じた、地域を共にひらく仲間とのつながりづくりに取り組む実践事例から、手法を学ぶ。

●実践事例の1事例

(案)一般社団法人ココ・アルバ（花巻）～多様な人たちが交流できる地域の居場所～

ココ・タベルバ・ラパンの取り組み

ココ・タベルバ（飲食スペース）、ココ・イルバ（高齢者・こどもの交流の場）、ココ・ミガクバ（就労移行・自立訓練）の複合的な施設での取り組み など

運営協力 ぬくまる食堂実行委員会
花巻ロータリークラブ
一般社団法人ココアルバ
県内市町村社会福祉協議会

④人と地域を創るコミュニティソーシャルワーク

「人口減少と単身化する地域の生活支援のあり方を考える」

アドバイザー

中島 修氏(文京学院大学人間学部人間福祉学科教授)

田中 尚氏(東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科教授)

実践報告

- ① 花巻市健康福祉部地域福祉課 課長 瀬川 文彦氏
- ② 花巻市社会福祉協議会地域福祉課 工藤 淳 係長
- ③ 太田地区生活支援ボランティア協議会 会長 藤原 侑氏
事務局長 八重樫 明夫氏

【目的・ねらい】

花巻市の人口は、昭和50年以降、少子高齢化が進み、人口は平成12年をピークに減少に転じている。

少子化の影響や過疎化の進行により、地域と交流しない高齢者の「社会的孤立」や「認知症によるご近所トラブル」、家族に頼らず地域に依存する単身高齢者など、地域課題も見えてきている。

アウトリーチによるニーズ把握と対応するサービス開発のしくみづくりは、個別支援から地域づくりにつなげる、問題解決型地域づくりの実践を組織として、コミュニティソーシャルワーカーが、情報共有し、課題解決の経験を積み上げ、共通化していくことが求められる。

問題解決型地域づくりとして、住民主体の支えあい活動に関わるコミュニティソーシャルワーカーと地域との連携をキーワードに、新たな取り組みにチャレンジしている実践事例から、手法を学ぶ。

●実践事例の1事例

(案)住民主体の課題解決に向けた、住民・団体参加型サービスの開発や住民のニーズ把握のためのアウトリーチの実践活動

- ・過疎地のコミュニティソーシャルワーク実践と地域づくり
- ・花巻市内に、コミュニティソーシャルワーカーと地域福祉訪問相談員を各10名配置した取り組みなど
- ・持続可能なコミュニティソーシャルワーク実践と展開システム

運営協力 花巻市健康福祉部地域福祉課

花巻市社会福祉協議会地域福祉課(CSW・訪問相談員)

⑤地域自立生活支援へのサービスと意思決定支援

「その人らしい生活を総合的に支えるサービスと意思決定を尊重するしくみづくり」
アドバイザー

田中 英樹氏(東京通信大学人間福祉学部人間福祉学科教授)

豊田 正利氏(東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科教授)

実践報告

- ① しんきん成年後見サポート花巻 常務理事 照井 正夫氏
- ② 可児司法書士事務所 司法書士 可児 あさみ氏
- ③ 株式会社ケアート 代表取締役 藤田 甲之助氏

【目的・ねらい】

「SDGs」(エスディージーズ)は、国連で世界が合意した「持続可能な開発目標」で、「誰一人取り残さない」社会の実現のため、貧困、保健、教育・成長、雇用、生産・消費など、17の目標ごとに2030年までに実現しようとする目標である。

地域共生社会の実現に向けて、障がい者、高齢者、子ども、すべての人がその人らしく、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めることが、「誰一人取り残さない」地域福祉の実践に求められている。

その人らしい生活の実現に向けて、個別課題や地域課題を可能性に変える取り組みにチャレンジしている実践事例から、手法を学ぶ。

花巻市では、金融機関、司法、障がい者福祉等との連携により、地域自立生活をより充実させる事業が展開している。

地域自立生活を支える多様な機関の支援や、新しい視点による事業について、花巻市の取り組みより学びたい。

●実践事例の1事例

(案)市内の企業では、農業ICT事業として、スマート農業に取り組み、人の手で行う作業を、株式会社ケアート(花巻)が運営する、障がい者就労継続支援B型事業所ふぁーすとりんくが依頼を受け、農福連携に取り組んでいる。

ケアートでは、SDGs(持続可能な開発目標)に取り組み、「働きがいも経済成長も」特にも、「若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事、同一労働同一賃金」の理念のもとに設立された企業で、その人らしい暮らしの実現と企業の成長にチャレンジし続けている。

運営協力 しんきん成年後見サポート花巻
岩手県社会福祉士会・中部ブロック

⑥全世代型・全対象型地域包括ケアと包括的支援体制のしくみづくり

「こども、高齢、障がい、認知症など、多問題家族支援と包括的支援体制」

アドバイザー

原田 正樹氏(日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教授)

木戸 宜子氏(日本社会事業大学専門職大学院教授)

森 明人氏(東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科准教授)

実践報告

- ① 一般社団法人かな社会事業事務所 理事 高橋 岳志氏
- ② 国立病院機構花巻病院 ソーシャルワーカー 浅沼 充志氏
- ③ 花巻市地域包括支援センター

【目的・ねらい】

家族がそれぞれ、貧困や引きこもり、虐待、介護など複数の問題を抱える「変容する家族への支援」は、家族の変化に応じ、それぞれを支援する多機関、多職種がそれぞれの視点から、連携を強めて課題を共有し、適切に対応することが求められている。

各相談機関では、多問題を抱える家族の支援に関わることが多く、その中で、親子で疾患や障がい、認知症などがあり、経済的に困窮する場合や判断能力などによって、適切な支援サービスにつながらず、生活環境が整わず、様々な問題が複雑に絡み合い支援困難となっている場合がある。

多問題を解決するため、分野を超えてネットワークの構築が必要であり、地域で支える仕組みづくりにより、単一機関では困難な家族への支援を多機関で協議、実践し、可能にしていくことが「調整」に取り組む実践事例から、手法を学ぶ。

●実践事例の1事例

(案) 社会福祉士が関わる、こども、高齢、障がい、認知症の多問題家族との向き合い方、成年後見制度を通じた支援 など

運営協力 花巻市健康福祉部長寿福祉課
花巻市地域包括支援センター
花巻市介護支援専門員連絡協議会

⑦花巻市の困窮救済事業「よるひる銀行」からはじまる地域福祉の過去から未来
～「社会的孤立を生まない地域づくり」から持続可能な仕組みづくりに向けて～
アドバイザー

小野 敏明氏(日本地域福祉研究所副理事長)

齋藤 昭彦氏(岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科客員教授)

実践報告

① 花巻市社会福祉協議会総務課 晴山 順子 課長

② 岩手日報社 編集局 報道部次長 八重樫 和孝氏

③ 特別養護老人ホーム明生園 生活相談員 鈴木 壽高氏

※IWATE・あんしんサポート事業の取組報告者

【目的・ねらい】

花巻市内では、戦後、ひとりの民生委員から始まった困窮救済事業「よるひる銀行」によって、民生委員の「世帯更生運動」のツールとして、「世帯更生資金」（現在の生活福祉資金）につながり、そして、生活困窮者自立支援へと発展している。

地域の絆を支える役割を担う民生委員を記事にした、岩手日報の特集「ゆらぐ砦 民生委員のいま」を通じて、福祉関係者や地域住民一人ひとりが、改めて、民生委員への理解を深める必要がある。

その中で、社会福祉法人の地域における公益的な取組として、「人に寄り添う支援」として、地域の社会福祉法人の生活困窮者サポートと連携した花巻市の生活困窮者自立支援事業や生活福祉資金貸付の事例紹介など、新たな取り組みにチャレンジしている実践事例から、手法を学ぶ。

●実践事例の1事例

(案)岩手県社協、岩手県経営協での社会福祉法人協働による社会貢献「IWATE・あんしんサポート事業」による、生活困窮者自立支援事業との連携による生活課題を抱えている方への支援 など

運営協力 岩手県社会福祉協議会福祉経営支援部
岩手県社会福祉法人経営者協議会
花巻市社会福祉協議会総合相談センター
花巻市内社会福祉法人（高齢者福祉施設）連絡会

【3日目 8月21日(土) 9:15~12:30】 全体会 ※会場 花巻文化会館

○受付 9:00

◆動画配信サービスでのライブ配信によるオンラインセミナー

【定員 会場参加 100名】

○ワークショップ・分科会報告 9:15~10:45

・総合司会 神山 裕美氏(大正大学社会共生学部社会福祉学科教授)

○総括講演 11:00~12:15

・大橋 謙策氏(特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 理事長)

○閉会式 12:15~12:30

・次期開催地(愛媛県今治市) 挨拶

・閉会 挨拶

10 お申込み・お問い合わせ先

○参加費 【会場参加】

一般6,000円、学生2,000円(資料代、2日目分科会参加費)

【オンライン参加】

一般4,000円、学生1,000円(2日目分科会参加費)※資料は各自でダウンロード

※印刷資料希望の場合、別途、一般2,000円、学生1,000円(郵送配布)

【岩手県内参加者※会場参加・オンライン参加いずれも】

一般2,000円、学生1,000円(資料代、2日目分科会参加費)

【1日目 鼎談、シンポジウム】(会場参加・オンライン参加)

一般・学生ともに1日目のみの参加 無料

○その他(会場参加で希望者)

・2日目(8月20日) 昼食(お弁当・飲み物代) 1,000円

※分科会会場周辺には、昼食等を購入できるコンビニやお食事処等が少なく、セミナー申込の際にご希望されるか、各自事前に昼食等をご準備のうえご参加ください。

○申込締切 2021年7月23日(金)

○お申込先 名鉄観光盛岡支店

〒020-0022 岩手県盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル9階

TEL 019-654-1058 ・ FAX 019-654-1044

※別紙「参加申込書」、「宿泊等のご案内」をご参照ください。

○お問合せ先 第26回地域福祉実践研究セミナー実行委員会

(社会福祉法人花巻市社会福祉協議会内)

〒025-0095 岩手県花巻市石神町364(担当 小田島・根子・工藤)

TEL0198-24-7222 FAX0198-22-4283

e-mail : hanamaki-syakyo.vo@proof.ocn.ne.jp

11 留意事項

○新型コロナウイルス感染予防対策について

会場参加の場合、開催日までの1週間は自ら検温を行い、体調の把握に努めるとともに、セミナー当日も検温を実施します。

37.5度以上の発熱がある方、せき・息切れ・強いだるさなどの症状がある方、頭痛・のどの痛み・嗅覚味覚障がいのある方には、当日のご参加をお断りします。

○オンラインによる参加について

申込時においてオンライン参加を希望される場合、第1日目、第3日目は、動画配信サービス「YouTube」での動画配信、第2日目の分科会は、ビデオ会議システム「ZOOM」等(予定)を使用しますので、インターネット使用可能な環境でカメラ付パソコン(2日目必須)やスマートフォン等(1日目、3日目)で参加ください。

また、セミナー参加の際、事前にビデオ会議システム「ZOOM」等の最新版へのアップデートをお願いします。

オンライン参加者には、8月初旬にオンライン参加方法等のご案内を郵送でお送りします。

12 その他

○質疑応答について

セミナー当日の質疑・応答の時間に、発表者等から可能な限り返答予定ですが、時間の都合上、返答できない場合もありますので、ご了承ください。

事前に講演者に質問したことがあれば、申込み時に、発表者等へのご質問等を受付けますので、発表者等の氏名を記入のうえ、質問をお寄せください。

○セミナーの中止または開催方法の変更連絡について

コロナ感染状況等により、本セミナーを中止または開催方法の変更等のある場合は、8月10日(火)午後3時までに花巻市社協ホームページ(<https://hanamaki-syakyo.or.jp/>)に掲載して通知しますので、必ずご確認ください。

○会場参加について

会場参加定員を超える申込みのあった場合、抽選を実施し、申込みされた方に郵送で「参加可否決定通知書」を通知し、オンライン参加への切り替えをお勧めすることがあります。

この「第26回地域福祉実践研究セミナーin岩手・はなまき」は、共同募金の助成を得て実施しています。